

# ふじみの

1966 6

東京農業大学畜産学科畜友会



ふ  
じ  
み  
の

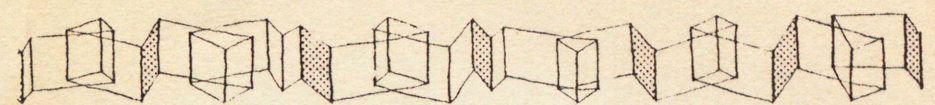
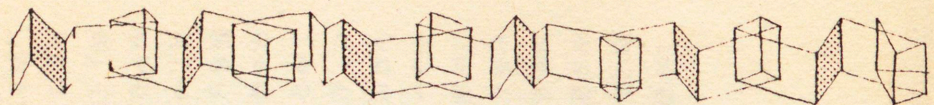
東京農業大学畜友会



— ふじみの 第六号 — 目 次 —

「ふじみの」六号を発刊するにあたって	畜友会委員長	鶴岡恒雄	1
新会員を迎えて	畜産学科科長	平林忠	3
畜産と汚水処理	東京農業大学教授	石丸隼雄	4
「農業構造改善」事業	畜産二年	藤尾東泉	7
これからの養豚の糞尿処理	畜産二年	北村栄治	9
ミンク	畜産学科	布田健彦	10
卒業生からの寄稿	第九期生	万納佑平	14
畜産学科へ入った感想	畜産一年	角田健司	17
畜産学科に一年在学して	畜産二年	岡田俊彦	18
畜産と英語	畜産三年	今井清孝	20
想 日子への便り	畜産経営学研究室	金野俊彦	21
随 学生時代	畜産三年	足立正孝	23
時の観念について	畜産三年	佐古憲治	24
夢のヴァレンタインと妻	畜産四年	佐々木登	25
アンケート			27

— 詩 —	荒野	山坂語浪太	31
鳥		中野佳子	32
隨筆 ある断想	講師・畜産学科主事	吉村喜彦	33
— 雑感 —	人喰（飼養研の学生諸君へ）	杉村敬一郎	35
うそとほんとうのモルモット	助教授	石島芳郎	36
続・友への手紙	講師	伊藤澄麿	38
研究室便り			
家畜繁殖学研究室	畜産経営学研究室		40
家畜育種学研究室	獣医学研究室		41
畜産物利用学研究室			42
			43
			42
昭和四〇年度卒業論文題目一覧表			44
東京農業大学畜産学科畜友会規定			49
特別会員住所録			52





「ふじみの」六号を発行するにあたって

畜友会委員長 鶴岡恒雄

「可能性の追求」何時だったか、帰宅途中の電車の中でぼんやりしていた時、ふっとこの言葉が浮かんできた。

その時何を考え、どんな事柄に関連してこの言葉が脳裏に浮かんだのかも覚えていない。唯何故そんな言葉が出て来たのか不思議に思ったことだけを覚えてる。

「可能性の追求」これだけでは何の意味もなく、特別目を引く、珍しい文字が使われているわけでもない。だがそれ以来約半年、この言葉が私の脳裏に付いて離れなくなった。と言っても一日、二十四時間これだけを覚えてるのではない。私は哲学者タイプの人間ではない。自分を取りまく外界から全く隔絶した精神状態にある時、簡単に、早く言ってしまうえば、全く何も考えていない時、ふっと我を取りもどして見ると頭の中にあるのはこの言葉である。無言の内に幾度も幾度も繰返し「可能性の追求」「可能性の追求」とつぶやいているのである。初めの内はたいして意味のない、考えても何もならないように思っただけにも止めずにいたのだが、あまり度々現われ

るので自然とこの言葉はどんな意味を持っているのか考えて見ようと言う気になった。といって、前にも言った通り、一つの事に長時間頭を使っていられないのが私の性分であるから、向こうからやってくるまでは何も考えてはおらず、この言葉が私の意識の扉をたたいた時だけスナワチ、自然に浮かんできた時だけその意味を考えるようになった。だから、この言葉に対する私の解釈は全て断片的であり、全くつじつまのあわないこともあるかも知れない。

まず前提条件として、「宇宙は無限大の可能性より成っている」ということを上げておきたい。宇宙は無限である。思想にしろ、物質にしろ、象徴にしろ、具現にしろ、存在するものは全て宇宙より生じたものである。宇宙より生じたものである。宇宙は総てを包括している。宇宙にとって全てが可能なのである。宇宙にとって不可能なことはない。何故なら「宇宙にとって不可能なもの」は、存在しないからである。「存在しないもの」が、存



在するわけではないのだから、宇宙にとって総ては可能である。すなわち、存在する、ありとあらゆるものは宇宙にとって可能なのである。

ところで「宇宙とは何か」と言えば、それは「宇宙を構成しているもの総てが宇宙なのである。つまり、物質、精神を問わず、存在するものは総て宇宙である。これはあたかも「国民なくして国家なし」「畜友会員なくして畜友会なし」と同様な因果関係にある。宇宙を構成しているものとは何か。それは存在しているものである。

太陽と言う、ちっぽけな火の玉、地球と言う、美しくも、汚なくもある遊星、そしてその住人たる我々、そしてこの「ふじみの」も立派な存在するものであり、それぞれの立場で宇宙を構成しているのである。

さて、地球の住人たる我々は、今述べた通り、宇宙そのものである、と言える。スナワチ我々の身体も精神も全て宇宙の塊りのようなものである。

ここで先程書いた前提条件を持出す。「宇宙は無限の可能性より成っている。」これである。アイデアルではない。あくまでこれである。

従って「我々は無限の可能性の塊りである」ことになる。我々は如何なる人物にもなれる可能性を持ち、如何なることをも成し得る可能性を有しているのである……。

現在我々はこの自分の持っている可能性をどの程度、認識し、どの程度追求しているであろうか。ほとんど、「無」に等しいのではないだろうか。

自分には才能もない、金もない。勉強した所でどうせたいした所には就職できないにきまっている。努力したところで大したことはできないにきまっている。等々、自分の持っている可能性を明確に深く認識もせず、努力をおこたっている者が、我々の大部分をしめている。せいぜい大学に居る間でも面白、おかしく暮して、大学を出たらどこかの会社のサラリーマンになり、可愛い奥さんをお願い、二三人の子供を持ち、平々凡々と暮らすのが我が人生の夢なりとか何とか考えている者が多いのではなからうか。これも悪くはない。いや幸福な人生を送れるかも知れない。しかしこれではあまりにもつまらなくはないだろうか。せつかくこの世に生まれ、大学にも入ったのだ。せめて学生の間だけでも途方もなくでかい夢を持ち、自分の可能性を最大限に追求しようではないか。

## 新会員を迎えて

畜産学科長 平 林 忠

新会員諸君おめでとう。

年々歳々新人を迎える行事が繰返されて、おなじように考えられるけれど、時の流れに従って容相は変化している。特に本年は例年と違って、百六十名という多数の新人を迎えた。このことは畜産学科ばかりでなく、全国各大学とも定員の超過入学を実施して浪人の氾濫を防止した結果であって、戦後の一時的特異現象と見るべきことと認容せざるを得ない。

この超過人員をことなく収めるためには教職員の努力はむろんのこと、会員諸君も相互に耐えしので事故を未前に防ぐように努めてもらいたい。先年起ったような数々の出来事は、今後絶対に起きぬようにしよう。

私も終戦子と、かって呼ばれた一人であるが、当時、日露戦争に大勝した吾々の親たちは「勝って兜（カブト）の緒をしめよ」と吾々の驕（オゴル）心を抑えてくれたように記憶している。この度の敗戦後の今日、人の子に何んと訓えてよいのか適切な言葉の持ち合せがないのが残念である。

新入生諸君!! 農大畜産学科に入ったことの意義を深く考え、胸をふくらまして前進してもらいたい。  
いささか蕪辞を述べて挨拶とする。



## 畜産と汚水処理

東京農大教授 石丸 園 雄

私が、汚水・汚物処理の研究に頭を突っ込んで既に十年近くになるが、その動機は或る市長さんから、地方自治体で一番苦勞して居るのは「汲取りと塵取り」で、これを何か科学的に解決出来ないものかと相談を持込まれた事に始まる。大体農業大学では種を播き、肥料を施して野菜、穀物を採り、飼料を与えて豚や鶏を養う仕事に始まり、これ等生鮮農産物を加工して食品とする仕事にこれに続き、更にこの食品を口から取り込んで身体の中を完通するパイプを通過させてから外に出すまでの栄養の仕事が、農学科、畜産学科、農芸化学科、醸造学科及び栄養学科で研究されて居る。この様に栽培、飼育↓食品加工↓栄養の円滑なる流れの終点を尻の穴と考え、そこから出たものには全く無関心であるというの丸い円の何処かが切れて居る様な、四百米トラックの一個所が未だ出来上って居ない状態に等しいと考えて良いのであって、我々はこの研究なしに農業大学の学問の体系の環は完全なものではないと意気込んでこの仕事を始めたわけである。曾って肥料として人間及び其の他の動物の糞尿を全部一手に農家が引き受けていたわけである

が、戦後肥料工場の再建に依り、この利用は急減するに至った。(尤も現在でも日本の総排泄量の四〇%位は農村に還元されて居る。)汚水・汚物の研究を先ず糞尿処理の問題から入った事は、今考えて見れば幸いであったと云うのは其の後色々の工場廃水の研究を行なって見て、糞尿処理の研究が基礎になって非常に役立って居る。即ち数多い工場廃水の処理には糞尿処理方式の中の何れかの方式を採用すれば大体解釈される場合が多い事である。考えて見れば糞尿というのは一番やっかいな廃水と言えらるだろう。こうした研究の結果昭和三十五年、東京都北多摩郡国立町の多摩川畔に人口五万七千人分の糞尿を全国で初めて化学処理方式と言う新しい方法での処理場を建設した。従来の処理場は嫌氣的微生物を利用する消化槽方式のみが厚生省の公認であり、この方式に依る処理場の建設には国家の補助金や起債という助成が行なわれて居た。然しこの消化槽方式は糞尿を巨大なタンクに入れて三十度以上の温度で三十日間も嫌氣的に酸酵させるという方法なので、空には人工衛星が飛んで居る時代に、人口衛生の糞尿をそんなスローな方法で処理するには余りに時代遅れで、何とか汲取った糞尿をその日の

の中に処理する方法はないかというわけで我々は化学処理方式という新しい方式を研究したのであるが、こゝに旧来の消化槽方式と我々の新しい化学処理方式とが真正面より衝突した。厚生省には消化槽メーカーのバックアップがあり、交渉は難渋したが、幸にも当時自治庁長官が本学出身の青木氏であり、内藤学長の強力な支援もあって、全国に三ヶ所国立、鎌倉、吹田に初めて化学処理方式に依る処理場の建設が許可された。其の後三十八年には国立に人口二十七万人の糞尿をその日の中に多摩川の流水くらいまで純化する増設工事を行ない、更に四十五年度内にはこれを三十三万人分に、四十五年度迄に四十五万人分の増設を予定して居る。この間部分的な装置の改良、改善の基礎的研究は総て農業大学の化学研究室で行なっている。

この様にして糞尿処理から始まった汚水・汚物処理の研究は其の後、次第に研究の窓口を広め、都市下水、工場廃水等にも手をつけて行ったが、工場廃水の研究を始めるとこれが意外に農学と関係の深い事が解って来た。即ち莫大な種類の工場の中で有機性の物質を含む工場廃水を出すのは大体農業に関係のある工場で、パルプ工場、酒精醸造場、澱粉工場、缶詰其の他の食品工場、屠殺場、酪農、鞣皮工場、織物工場、肥料工場、農薬工場等々で業種別に見ると全産業廃水の80%以上の工場が農業大学と関係をもって居る。これ等沢山の工場に農大の卒業生が居り、そして皆工場廃水の問題に苦勞して居るとすれ

ば、その解決に大学の研究室が一肌ぬぐという事は大いに意義深い事ではないだろうか。而も特に忘れてはならない事はこれ等の工場から排水される工場廃水で先づ第一に、そして最も大きく被害をうけて居るのは農家であるという事で、農業は加害者であると同時に被害者でもあるわけで、汚水、汚水処理の研究は農学と切り離せないものと言ふべきであろう。

さて話を「畜産と汚水処理」の問題にしばって考えてみよう。畜産関係の汚水では、①飼育家畜の糞尿と畜舎洗滌水の混合した畜産廃水、②屠殺場廃水、③食肉加工、乳製品製造工場廃水及び、④鞣皮及びその染色工場廃水等が問題となる。

先づ家畜糞尿であるが、昔、農家で牛や豚を一頭、二頭と飼って居た時は余り問題も起らなかったが、最近多頭飼育が盛んになったため、その糞尿の処置が困難を極めて居る。家畜糞尿は動物の種類に依り、体重(年令)に依り、そして飼料に依って量的・質的に大いに異なる。それで処理方法、処理施設の規模を決定する場合この値を確実に握る事が大切である。

特に問題になるのはこの糞尿に食い残しの飼や敷薬が入り、それに加えて畜舎の洗滌水が入って汚水は驚く程の水量となる。これを処理する場合に先づこの固型物を除去する工程が重要である。自然沈降の外機械的に除滓する方法も色々改良されて来た。斯くして分離された固型物は焼却するか又は堆肥化する方法がとられる。又一



方溶液の部分の処理は、化学的に凝固沈降させる方法、微生物に依って分解させる方法等がある。微生物に依る場合も嫌氣的な細菌に依るか、好氣的な微生物に依るかの問題があるが、微生物に依る方法では何れも濃厚な溶液を稀釈するために多量の清水が必要である点に留意しなければならない。

好氣的な微生物で処理する方法が最も一般的であるが、これも標準活性汚泥法、ステップエアレーション法、バイオソープション法、表面曝気法、全酸化法、完全混合曝気法等がある。この外浄化槽方式、浸透方式等の方法もあるが未だ実用化の域には達して居ないのが現状である。筆者は昨年より平林学科長の推薦により農林省畜産局及び中央畜産会の協催で全国より十名の研究員と十名の研究協力者が年二回会合をもつて『家畜の糞尿処理方策樹立のための技術的問題』の研究会の研究員に選ばれ、大阪府立大、日本獣医大、都立大、農工大、農大の外農林、厚生両省、科学技術庁、農技研、畜産試験場、神奈川衛研、公衆衛生院の研究者と協同研究を行なつて居る。今年には神奈川衛生試験場衛生工学課長、大野茂氏（本学出身）と共同で全酸化法及びオキシデーション・デッチに依る処理法の研究を実施する。

次に屠場廃水の処理は屠殺の時に豚で一頭当り一トトン、牛で三ト五トンの廃水が出る。この廃水中には尿の十倍位の濃度の汚染度をもつ血液と肉片の油脂が入つて来るので処理には困難をとまなう。全国の屠場廃水

処理場の大部分を建設して居る共和化工株式会社、今般活性汚泥法に依る二段曝気の方法で施設の開発がなされ、その成果が期待されて居る。

又、食肉加工及び乳製品工場の廃水は、工場の規模に依つて処理方式も選択されなければならないが、処理方法の研究が進んだ今日では、良質の処理は可能である。最後に鞣皮工場及びその染色工場の廃水は、皮鞣しの廃水は比較的容易であるし、又廃水量も多くはないが、染色工場廃水は脱色の問題で困難が多く、活性炭素に依る方法等を研究して居る。

以上畜産に関する污水及びその処理法の概様を紹介したが、処理方法が高度化して、良質の排水を望まれる様な場合、畜産技術者の技術の向上が期待されて来る。この期待にそう様諸君達の技術の練磨と基礎的学問の勉強を望みたい。又公害問題がやかましくなつて来た今日、畜産関係者もこの公害防止の研究に真剣にならないと、何時かは産業界から脱落せざるを得ない事になりはしないかと心配して居る次第である。

## 農業「構造改善」事業

畜産二年 藤 尾 東 泉

政府は、昭和四十五年までの十年間に三一〇〇全市町村自治体とその補助機関をすべて動員してこの事業がすすめられ、これに三〇〇億円の国家資金が投入され、さらにその数倍の資金が農民の負担となります。この事業により、ごく少数の富農が育てられ、発展させられるのでしようが、中農および貧農の大多数の農民は土地からひきはなされ、農業外にほうり出されます。

この事業を実際のうゑで、さらに明確かつ具体的に理解するため、一例を上げてみます。

(1)パイロット地区に指定されている千葉県成田市豊住の例を上げると次のとうりです。

ここでは四八二戸の農家を、適正農家一六〇戸、農村工家三〇〇戸、離農二二戸とする計画がたてられています。

「農村工家」とは、一戸二名の工場労働者をだし二反の耕地をもちます。そしてこれらの人は工場の株の配当と労賃と自家飯米で生活をします。このために、地域には六〇〇名の労働者をやとう工場の誘致を計画しています。

このねらいは、宿舍も食糧をも自分でまかない、小遣

銭程度の低賃金で働かせることであるのは明らかです。

「適正農家」は、耕地四町歩平均（二町歩水田、二町歩牧草果樹など）とし、(イ)酪農中心型グループ、(ロ)養豚中心型グループ、(ハ)果樹酪農中心型グループ、(ニ)果樹養蚕中心型グループ、(ホ)牧草販売中心型グループなどにわけられます。そしてこの事業費総額は、二九一億円と計上されています。

(2)この農業「構造改善」事業計画の進行とあわせ、工場誘致で酪農資本、漁業資本の農村進出がめだつてふえてきています。牧場、養鶏場、果樹園、加工工場など、いろいろありますが、政府は積極的にこれを援助しています。

(3)大工場の地方進出がすすめられています。市町村自治体は、工場誘致条例を先をあらそつてつくり、固定資産税の免除、土地の提供など特典をあたえています。

これらの事例に集中的にあらわれているように「構造改善」事業の内容は次の特徴をもっています。

1. 富農などの大農業を育て、多数の中小農民を直接農業外にほうり出します。
2. 非常に多くの事業費がかかるため、農民は借金を背



おい、農業をやめざるをえなくなり、農民層の階級分化が促進されます。

3. 大資本を農村に進出させます。そしてこのために計画当初は自立経営として育成されると期待していた農民もいずればふるい落とされる様にしてあります。(4) 農業「構造改善」事業計画樹立の指導方針案も、この方向をうら書きしています。

たとえば水田部門では、移植栽培から直播栽培にして田植作業の手間をばぶきます。除草は薬剤でおこない、病虫害防除はスピードスプレーヤー又はヘリコプターでおこない、収穫はコンバインでおこないます。これによって米は石当りの価格が引下がります。

以上の事がおおまかな「農林省統計表」および農業調査結果報告書により下記の表によりさし示されております。

下記四十年年度までですが、現在四十一年度は相当の離農者が出てきていると思われれます。と同時にこれが農業「構造改善」事業により借金がふえて農業では食って行けないということを示しています。

また農村の農業従年者が非常に大きな数字を示して、女性化ならびに老令化現象を示しているのは農業「構造改善」事業に原因があると言っても過言ではないでしょう。

前記の様に今おし進められている農業「構造改善」事業は農民の切りすて政策の一環としておこなわれていま

す。  
我々畜産学科の学友の大部分が農村出身者であります。農村を守るためにも冷静に農政を見つめましょう。

調査年度	農家総戸数	専業農家	兼業農家の増加	
			兼業農家	
			第1種	第2種
22. 8. 1	5 9 0 9	5 5.4%	2 8.5%	1 6.1%
25. 2. 1	6 1 7 6	5 0.0%	2 8.4%	2 1.6%
30. 2. 1	6 0 7 5	3 5.0%	3 7.7%	2 7.4%
35. 2. 1	6 0 5 7	3 4.3%	3 3.7%	3 2.0%
38. 12. 1	5 8 2 8	2 3.9%	3 3.9%	4 2.2%
40. 2. 1	5 6 6 5	2 1.5%		

## これからの養豚の糞尿処理

畜産三年 北村 栄治

誰でも後始末をするのは嫌いであろう。何事に於いてもそれは言えると思うが、好きこのんで後始末をするのは、御馳走や祝い物の残り酒などの後始末であろう。

後始末の中でも糞尿処理は最も基本的であるが、最も敬遠されるものでもある。豚君などの場合はトンと手がつけられていないだろう。今までの豚の糞尿処理は各豚房から集まった糞尿を、一定の溜りに集めておき、いっばいになれば、畑などに運んで行って処理するであろうが、それではいつまでたっても省力化や合理化や能率はちっとも上らないだろう。これでは畜産の糞尿処理の問題はベンピ状態に陥いることは必至だろう。

ここで小生宅で行なっている曝気式処理方法を紹介しよう。これから畜産をやろうとする人に参考になれば幸である。これは糞尿中に長時間にわたって空気を吹き込むと糞が分解して、液体との分離が非常によくなる。つまり空気を吹き込むと空気中の酸素により、糞の繊維質を包む粘性のコロイド性物質が酸化して、糞がかきまわされるとき、この粘性のあるコロイド性物質が繊維質からがされる。このため固体の分離が非常によくなり、又沈澱しやすくなる。この様に予備曝気槽で曝気し、ポンプにより篩でふるいわける。この時、分かれたゴミや固

形物は焼却炉でやく。ふるい分けられた汚れは、ガス発生槽に送られる。ここで汚水を酸酵させメタンガスを生じさせる。汚水貯留槽から定量ずつ曝気槽内に入る。(予備曝気槽とは異なる。)ここで約八時間曝気し固形物は完全に分解され、極めて沈澱しやすい様になる。これが予備沈澱槽に入り固形物はここで全て沈澱する。その後沈澱槽でさらに微細な物を沈澱させる。なおここで浮き(ゴミ)が浮くので、これを沈ませる為に、霧状の水滴を散布する。沈澱槽を通った汚水は栄養分を含んでいるのでこれを池にながして魚をかうのも一石二鳥ではないかと思う。これが大体曝気式処理方法である。豚舎の清掃は水洗いで豚もろとも床まできれいに洗い流す。これは、三〇〇頭位ならば約一時間もあれば済んでしまいい合理化に一步駒を進めることになる。

しかしガス発生槽はゆっくり一ヶ所に静置しておけないからガスは発生しない。又欠点は、たえず汚水中に空気を送り込んでいるので、悪臭がたちややすいので密ベイスにしておいても悪臭がもれてしまう。この様に行なっていて、三人位の労働力で三〇〇頭位は充分飼育して行けると思う。

ここらへんで眠くなってきたのでペンを置く。

四十一年四月二十八日



性成熟期 十ヶ月  
 繁殖期 春  
 発情時間 三十六〜六十時間  
 性質 多発情性  
 発情週間 七日〜十一日  
 排卵ノ型 交尾排卵  
 排卵時期 交配後四十〜五十時間  
 妊娠期間 四十〜七十日

ミンクは、北米大陸原産のイタチ科に属する動物で、十一の亜種に分かれる。原産の黒褐色（ダーク）のユーコンとイースタンの二種の交雑により、西歴一九三一年米國ウエスコンシン州で最初の突然変異種が出現し、その後種々の突然変異種が生じ又、それらの突然変異種同志の交雑により新変種が生じ現在では、その数、数十種以上の美しい色彩を持つ変種に及んでいる。西歴千八百年代後期に始まったミンクの養殖当初粗悪だったミンクの毛皮は、生態観察などにより繁殖飼料飼育などの知識が蓄積され毛皮の品質も的確な選択などにより粗悪だっ

たミンク毛皮も徐々に改良されていった。それと相まって毛皮枚数も着実に増加していった。その後毛皮界の流行も長毛獣キツネから短毛獣に移行し一世を風靡したる養狐は、衰退の一途をたどったのに反し養殖ミンクは、急速に普及し現在では米國、カナダ、デンマーク、フィランド、ノールウエー、スエーデン、英國、オランダ歐州の各国ソ連、日本と世界各国に及んでいる。現在養殖されているミンクはほとんどが突然変異種で一組の劣性遺伝子の組合せによるものが多く、その他に一組の優性遺伝子の組合せ、劣性と優性との組合せ、二組或は三組の劣性遺伝子の組合せなどによって生ずる事が多くの学者の研究によって解って来た。

- (一)優位形質のミンク  
 ブルーフロスト、ブラッククロス（ドミナントホワイト）、ローヤルシルバー、スタンダードダーク
- (二)劣位形質のミンク  
 シルバーブルー（プラチナ）、アリュエーションパステル、モイルバフ、パロミノ、ヘドランドホワイト、アルビノ
- (三)二種の交雑によるミンク

サファイヤー、ブルーアイレス、ラベンダートパイズ、ドンパステル、ハイネンバフ、プラチナブロード、パール、リガルホワイト、

(四)三種の交雑によるミンク  
 ウインダーブルー、ホープ、パール、バイオレットなどがある。又色彩別に主な品種について簡単に説明すると

(一)黒色系

スタンダードダーク

毛色は黒色で一般にダークと呼ばれ世界的に多く飼養されている。

(二)青灰色系

(イ)シルバーブルー

プラチナと呼び色は灰色で最初に現われた突然変異として有名である。

(ロ)スティルブルー

色は黒灰色で一般に飼養されていない。

(ハ)インベリアルプラチナ

色は灰色であまり飼養されていない。

(ニ)アリュエーション

色はヤヤ鉄味を帯びた濃灰色でアリュエーション病という独特の疾病を有す。

(ホ)サファイヤー

アリュエーションとシルバーブルーの交雑により作り出した二因子劣性のミンクで毛色は鮮明な青灰色を

し、青灰色系ミンクでは最も一般的なミンクで世界的にはパステル、ダークに次で第三位に飼育されている。我が国では本種が一番多く飼育されている。

(ハ)ブルーアイリス

アリュエーションとスティルブルーの二因子劣性で、毛色は濃灰色である。

(ト)ウインターブルー

このミンクは、アリュエーション、シルバーブルー、パステルの三因子劣性で毛色は、淡青灰色である。

(チ)バイオレット

アリュエーション、シルバーブルー、モイルバフの三因子劣性で毛色は、やゝ褐色味を帯びた青灰色である。

(リ)ホモシルバーブルー（ホモサファイヤー）

スチワートシルバーブルー（又は、スチワートサファイヤー）同志の交配により四分の一の比率で生じる毛色は、淡青灰色で美しい。

(三)褐色系

(イ)ローヤルパステル

ブラウンアイパステルとも呼ばれ毛色は、褐色を呈し、一般的なミンクである。

(ロ)グリーンアイパステル

毛色は一般に、パステル種より明るい本種はトパイズ作出の際に利用さる。

(ハ)サッカロットパステル

毛色はローヤルパステルに類似す。



(二) アンバーゴールドパステル  
毛色は、赤味を帯びた褐色を呈す。ハイネンバフ、  
ホープの作出に利用さる。

四 淡褐色系

(イ) トパス

ローヤルパステルとグリーンアイパステルトの二因子  
劣性で毛色は、淡褐色である。

(ロ) ドンパステル

ローヤルパステルとサッカロットパステルの二因子  
劣性で毛色は、淡褐色である。

(ハ) モイルバフ

毛色は、明黄褐色からローヤルパステルに似た褐色  
まで明濃色々色彩がある。ラベンダーバイオレット  
の作出に利用さる。

(ニ) プラチナロンドン

シルバーブルーとローヤルパステルの二因子劣性で  
毛色は、淡褐色を呈す。

(ホ) パロミノ

本種はジョンソン或は、ケインパロミノと称し他の  
パロミノと区別す。毛色は、淡黄褐色である。

(ヘ) ハイネンバフ

アンバーゴールドパステルとシルバーブルーの二因子  
劣性で毛色は、淡黄色である。

五 黄青灰色系

(イ) パール

(ニ) リガルホワイト

アルビノとパステルの二因子劣性で全身白色である。

参考文献

北大理学部動物学教室・堀田義蔵発表の  
サファイヤとパロミノの交雑によるパールの作出  
北海道ミンク新聞・養殖ミンクの歴史

黄青灰色ないし淡黄青灰を呈しているが、遺伝学的  
には次の四種に分かれる。

① シルパールとパロミノの二因子劣性毛色黄青灰色  
で本種の大半を占めている。

② シルバーブルーとアリュージュシャンとパロミノの三  
因子劣性、毛色は、淡黄青灰色

③ スティルブルーとパロミノの二因子劣性

④ スティルブルー、アリュージュシャン、パロミノの三  
因子劣性

(ロ) ホープ

シルバーブルー、アリュージュシャン、アンバーゴールド  
パステルの三因子劣性、毛色は淡黄青灰色で非常に  
青味が強い。

(ハ) ラベンダー

アリュージュシャン、モイルバフとの二因子劣性で毛色  
は褐色青灰色で非常に青味が強く美しい。

六 白色系

(イ) ドミナントホワイト

ブラックカロスガホモの状態のミンクで、頭と尾の  
付根に黒斑を有し他は純白である。

(ロ) ヘドランドホワイト

毛色は純白で本種は先天的にツンボであるといわれ  
る。

(ハ) アルビノ

白色で鼻と尾端に淡褐色の斑点がある。

わが愛する母に

お話することがたくさんありました

わたしは異境に あまりに長く住みましたが  
しかし わたしをいちばんよく理解するのは  
あなたでした どんときでも

あなたにあげようと考えた

わたしの初めての贈り物を

おすおすとこどもらしい両手にわたしが持つ今  
あなたは二つの目を閉じられた

けれど 自分でこれを読むとき

わたしの悲しみが不思議に忘れられるのを感じます

言いがたく親切なあなたの存在が

無数の糸でわたしを取り巻いているために



縮合りん酸塩

第九期生 万 納 佑 平

はずかしい話ですが、大学を卒業し現在の会社へ入社するまで表題の化合物が何に使われ、どんな機能を有しているのか、私の知識は全くのm i l d でした。

りん化合物は研究すればする程益々難しくなるとよく言われますが、無機のポリマーである縮合りん酸塩がこれ程多方面に使われ、かつ多くの作用を有する処からむべなるかなと感じ入る次第です。その一端を簡単に御紹介し、参考に供したいと思えます。

§ りん酸塩の種類

普通りん酸塩としてよく知られているものは、一分子中にP原子が一個有するオルソりん酸塩ですが、本論の目的は一分子中にP原子が二個以上ある縮合りん酸塩で、製造方法によりいろいろの種類があります。

A オルソりん酸塩

塩含量により次の3種があります。

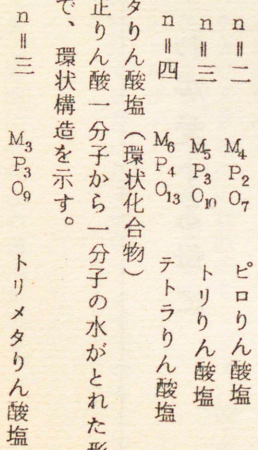
例えばNa塩では



B 縮合りん酸塩

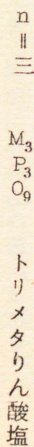
一、ポリりん酸塩(鎖状化合物)

m分子の正りん酸から(m-1)分子の水がとれて出来るポリりん酸の塩で、構造は直鎖状を呈し、一般式は  $M_{m+2}P_nO_{4m+1}$  (M: 金属) で表わされる。



二、メタりん酸塩(環状化合物)

正りん酸一分子から一分子の水がとれた形のもので、環状構造を示す。



三、ポリメタりん酸塩

縮合度が非常に高く、長鎖状高分子りん酸塩である。

○ ヘキサメタりん酸ソーダ(グラハム塩)

( $Na_6P_6O_{18}$ )<sub>n</sub> と一般に書かれているが、実際には縮合度五〇〜一五〇の間であり、ヘキサという呼称は不適当と言えます。

○ ポリメタりん酸カリ(クロール塩) 示性式は ( $KP_3O_9$ )<sub>n</sub> で  $n=1000$  位。

§ 縮合りん酸塩の性質

A 一般的性質

化合物	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> % 含量	pH at 1% solution	% 溶解度
オルソりん酸塩			
NaH <sub>2</sub> PO <sub>4</sub>	65.1	4.5	85.3
Na <sub>2</sub> HPO <sub>4</sub>	50.0	8.5	7.7
Na <sub>3</sub> PO <sub>4</sub>	43.3	11.8	14.1
ポリりん酸塩			
Na <sub>4</sub> P <sub>2</sub> O <sub>7</sub>	53.0	9.9	5.5
Na <sub>5</sub> P <sub>3</sub> O <sub>10</sub>	57.0	8.5	1.7
Na <sub>6</sub> P <sub>3</sub> O <sub>13</sub>	60.4	8.0	易溶
ポリメタりん酸塩			
(NaP <sub>3</sub> O <sub>9</sub> ) <sub>n</sub>	69.6	6.5	易溶
(KP <sub>3</sub> O <sub>9</sub> ) <sub>n</sub>			不溶

B 金属イオン封鎖作用

アルカリ土類金属、遷移金属イオンと可溶性錯化合物を形成し、金属イオンとしての働きをマスクする。

C 分散作用

現在市販されている界面活性剤はほとんど有機物であるが、その中においてポリりん酸塩は無機活性剤とも言われ、貴重な存在である。水系におけるエマルションの安定化、チーズの溶融などに使われる。

D 加水分解

ポリりん酸塩の溶液を加熱すると、徐々に加水分解し、高縮合物から低縮合物へ、そしてついにはモノマーであるオルソりん酸塩に戻る。この変化は温度が高い程早い。加水分解性はポリりん酸塩応用上最大の欠点である。

E 緩衝作用

ポリりん酸塩はオルソりん酸塩と同様 pH 緩衝作用がある。縮合度が増す程弱くなる。

§ 縮合りん酸塩の応用

縮合りん酸塩が我が国で食品添加物として許可されたのは今から九年前の昭和三年のことで、主としてハム、ソーセイジ等の結着剤、チーズの溶融剤、アイスクリームの乳化安定剤、ビタミンCの安定剤等として広く食品



工業に貢献している。ミンクの飼料は毛皮汚染防止の点で適度の結着性が要求され、アメリカではその目的で使用されているという。その他工業方面では洗剤を初めとして、繊維染色、水処理関係、肥料、医薬等、広範囲に渡っている。

KK 千代田化学工業所

## 愛と友情

愛は野ばらのようで  
友情はひいらぎの木に似ている——  
ひいらぎは野ばらが咲くときには黒っぽい  
だが どちらが変わりなく咲きつづけるか？  
野ばらは春に美しく  
その夏の花は風に匂う  
けれどもまた冬が来るまで待つ間  
だれが野ばらを美しいと言いだるう？  
それならば愚かなばらの花輪をしりぞけ  
ひいらぎの光沢であなたを飾れ  
あなたの顔を十二月が枯らすとき  
なお ひいらぎが緑の花冠を  
残してくれるように。

## 畜産学科へ入った感想

畜産一年 角 田 健 司

長い間大学と言う表面的な言葉だけに対する憧憬を抱いていた私には、入学して間近いので畜産学科に入った感想を書いてくれと言われても、大学の科についてまだの印象はなかなかわき上って来ない。

大学に入学した多数の生徒諸君は各人各様の感じ方を持っていると思いますが、私の現在の気持は大学と言う漠然とした書類上の世界へ飛び込んだと言うだけで、真に迫るものはほとんど感じる事が出来ません。

それよりも、これまでのわずかな苦勞が実ったと言う淡い満足感のようなものを味わっている複雑な状態で、その裏側には高校時代の生活のイメージがかなりの割合を示しているような気がします。見慣れた大学の運動場、研究室など、もの珍しいものはあまり見当らない事や、入学式が高校の卒業式の延長のような雰囲気であるような事も、私の出身高校がこの大学の目の前に在る事からでしょう。それにつけても、普通の大学本来への憧憬が少しずつ壊れていくような気がして少し残念なような気がします。

以上のようなことを述べたのも、私にとって大学と言う大きな面だけが迫り過ぎてくるからでしょう。ただ単

に畜産学科に入っているのだと言う無意識の感じがあるだけで、感想とは……と言われても、容易に筆を運ぶことは出来ないのです。しかし頼まれた以上数行でも書かないわけにはいきませんから、この大学の側で暮して来た私は、畜産学科の畜産製造学の実験室、家畜診療所などを常に見ていて、興味をわかしていました。それと同時にこの学科の辛い面も間接的にでも、一応聞いて来ました。「留年制・厳格」など、当時は一つの仮想的なものとして映り、実感としてはなかなかうけ取れませんでした。しかし現在では、畜産学科に入っているんだな、と言う実感が漸次意識して来ているような気がします。しかし畜産学科に入った以上、専門過程を修了して、当然自分の夢をかなえる為にも自分の使命にぐんと重みがかかるのを感じた。けれども、これからの未知の世界への不安を感じることもたびたびあるが、それも自分の努力を信じていくより仕方がないと、言いさかせている。ですから私にとって、この学科に入った時に自然と頭に浮んだことは、これからの自分の進む道を再確認させてくれたことであった。又それが唯一の感想とも言ふべきものかも知れません。



## 畜産学科に一年在学して

畜産二年 岡

俊彦

畜産について特別の興味を感じているわけではないが、金には特に執着心がある。

それで畜産業は一生の仕事として、打ち込むだけの値打ちのある商売や業種だと考える。過去三年間、農業高校の畜産科に籍もあり、又家が畜産関係の仕事をしている関係もあり、畜産については、少ないながらも自分なりの解釈はしてきた。と言っても家畜の何かにの学問的な事は知らないが、家畜により一儲けして、ロールスロイスとまでいかなくても、キャデラックぐらいは乗ってやろうと考えている。

だいたい何事もそうであるが、利益のない仕事ほどつまらないものはないだろう。一部の知識階級の方々が金と云うものに批判的なのは、根っからの商売人の私には考えられないことである。皆さんがどのような職業に就かれるか知らないが、小事にとらわれ、目先の事にこだわら大局をなくした、又安定した平凡な家庭をつくるうなどと思つては、まず根本的に異なっている。そんな奴は男失格だ。今の平均的人間はダメだ。男たるもの博才がなくては、夢が大きくなっては、又個性が強くなっては。僕の友達はどうもスケールが小さい。もっとも才能

がなくてはどうしようもないが、しかしそれにしても生活に張りのない奴が多い。お互いにまだ若いのだから、デッカイことをしようではないか。

皆さんは家畜の中で何が一番好きだろうか？ 乳牛と言われるかたが多いと思うが、豚が大好きな小生としては残念だ。豚でない家畜ではないと云うぐらい豚に惚れ込んでいます。と言うのも肉畜産で生計をたて、大学で勉強させてもらっているからで、オーバーな表現かもしれないが、豚は僕の神様である。宗教など信じないが、豚は一生信じている。それ程だから、日本中のいや世界中の豚を腕の中に抱えたいくらいです。

畜産とは酪農だとぐらいに考えている、多くの方々、それでは豚がかわいそうです。再考察してはいかがでしょうか？

土地も余り広くは必要ないし、又大経営も出来るし、またその上にいいのは、値に乘せることが出来ることです。それからこれ程興味のある家畜は豚以外にはないでしょう。僕は二万頭養豚経営を目指している。もう一部は経営進行中だが、場所は高知県で養豚地としては後進地であるが、病気が少ない事と、良い仔豚の産地である点の特

長である。消費地である大阪まではトラックで十二時間ぐらいで、将来は屠殺し冷凍車で運ぶ計画もしております。養豚場の経営は軌道に乗るのに十年は必要とのこと、大変だろうと思つていますが、反面楽しみにしております。

人間は自信がなくなるとはいけない。言葉一つにも自信がないと、どうもだめなものであるが、まして将来について自信のない様なことでは、皆さん自信を持ち、又畜産界を農大卒で形成するぐらいに努力しようではありませんせんか。畜産学科で会えたんだから互いに助けあい、金儲けしようではないか。

## 孤独

孤独は雨のようなものだ

夕ぐれに向かつて 大海からのぼる

遠い はるか平野から

孤独はのぼって いつも天に住む

そして天から初めて街のうえに降る

昼夜の隙間に雨と降り

あらゆる巷が暁へ向かうとき

また何も見いださなかった二つの肉体が

失望して 悲しげに離れるとき

そしてたがいに憎みあうふたりが

仕方なく同じベッドに寝るとき

そのとき孤独は流河とともに流れゆく



# 随想

## 畜産と英語

畜産三年今 井 清 孝

昭和三十九年四月に、入学して以来、早くも二年が過ぎた。大学に入れば何事も横文字につながっていると思われた。

逆に言えば横文字に出会う回数が増してきていると思う。例えば、講義中でも横文字を使用される先生がほとんど全部であるといっても過言ではない。だいたいどこでもそうだが、大学の専門課程になると、ほとんどが横文字を翻訳したものである書物が多い。これらのことから考えてみても、横文字の占める範囲が非常に多いと言える。何も横文字をマスターするものではなくて、慣れることである。自分のそれぞれの専門課程の専門用語 (Technical terms) 位は慣れる方がよいのではなからうか。又慣れるべきだと思ふ。理科系だから語学の方はそんなに重要視しなくてもよい。文科系は語学は絶対に必要である。このような時代はもうとつきの昔。現代の我々は、理科系、文科系とわずに横文字に慣れる必要が十二分にできてきていると思ひます。

「何も横文字をやるために大学に來ているのではない。」と、ある人から質問されたが、表面はそうかもしれない。しかし、深く考えてみると、終戦後(今から2年前頃)にやると横文字の使用が許されたようだ。

そうなる、どうしても最高学校、つまり大学における比重が大きくなるのは、当然である。現代では、何をやるにも横文字のことがやかましく言われる。それだけ関心があるが故だと解釈する。

さて我々が専攻している畜産においては、ほんの三、四年前にやかましく言われるようになってきた。歴史は非常に浅いが、それだけ将来有望なものではなからうか。歴史が浅いが故に外国の文献にたよるようになる。この文献は日本語ではなく、横文字である。序文で述べたように、理科系だからこそやる必要があるのではなからうか、というのは、技術英語つまり手腕と頭脳の二本立であるからである。この二本立ができるのは、我々理科系の、いわば、特権のようなものではなからうか。サラリ

## E子への便り

畜産経営学研究室  
金 野 俊 彦

拝啓

春の息吹きがようやく感じられる今日この頃、E子さん、その後も御変わりありませんか。卒業式を待つだけになった残り少ない学生生活。四年間の農大生活を振り返ってみて、その感想として現在の心境を貴女にとペンを取りました。

家畜をみた事はあつても、手にふれる機会の少なかつた僕が、乳しぼり、豚の管理、サイロ詰め、圃場作業と家畜と寝起きたような一年の実習生活。農家生活の一端を覗く事のできた、神奈川に始まり岐阜、埼玉、岩手、長野等各県の畜産経営実態調査。そのあいだに北海道の酪農家、大宮の養豚場、千葉のマザー牧場等に農業の実態面を見聞して、又大野農高での教育実習、大垣農高の見学を通して、農業の社会的位置、農業経営に対する農高生の姿勢、親の態度等農業に対する意識の低さを知り、と同時に農大生の使命は？ 又僕自身農大卒と云う肩書で何をなすべきか。就職の方針を決定する頃になって深く考えさせられました。

そんな時期に、小学校以来高校まで数十人や数百人の同級生同期生の中で農業関係に職場をもつ唯一の貴女

マンのように、一つの決められた「わく」の中で汗水流して働いている。(りっぱな職業であるから結構であるが……) 我々、畜産を学んだ者は、前途有望でどこまでいっても終りが無い。反面から見ると、それだけやりがいのある学科ではなからうか。自分で考え、それを実行に示してゆく、するとやったものが、型で表われる。というのは、我々の将来の仕事は紙面上ではなくて、技術屋であるからである。技術屋と平行して考えられることは横文字であらう。

前述したように、歴史が浅いので外国の文献からよい所を、どんどん取り入れて、それを自分達で改良し、日本の風土、気候、その他に適すかどうかを判断し今後の畜産のあり方をもっと深く、広く、開拓するためにも横文字が大変に必要となってくる。将来、日本の畜産を背負って立つのは、ほかならぬ農大の畜産科に学んでいる我々ではないか。

何もかも、他人や他校に譲るのではなくて、農大の我々、又、自分自分でやってくるべきではないか。「畜産と英語」と題したように、英語を手段として、自分で描いた将来の畜産の目標に向って、一路、ひたすらに努力し、日本の畜産のために又、国民のためにも一生懸命になって進むのではないか。

最後に、小生、良い格構で書きましたが、大変に文章が堅苦しく、つまらない乱文になりましたが、小生なりの考えを述べたつもりでおります。



と話しあえた事によって社会人の眼からみた農業の姿を知り、農村と密着した農民の立場に立って出来る仕事へと夢が大きく広がって行きました。

貴女の話聞いて、職場に不満や疑問を持っているにもかかわらず、疑問を追求しても受け入れてくれない（上役が発言を認めてくれない）が経済的（サラリーその他手当）に他のBに比べ恵まれているので、仕事の内容に文句を云うより経済的裏付けが優先と割り切らずの態度になり「世の中とはこんなもの」とあきらめ割り切っている感じが強いのは、貴女の農業に対する意見や疑問に、共鳴する点が多いだけに残念です。と同時に農民の努力によって支えられている農業の上にあぐらをかいて悠然と構えているような、貴女（職場）の態度に對してすくなくならず反発を感じました。

農民の苦しみを知らない者、知ろうとしない者が、事務的に事を進めて行く、農民不在の考え方が横行したのでは、農民がやり切れない。もっと血のかよったつながりを保つよう、農民のリーダーシップを取る者は農民の生活に関心を持つべきではないか。しかし土とともに学んだ者でなければ、農民の心まで入って行く事はむずかしいかもしれない。そこで実習できたえ、作物を作る喜び、苦しみを農民とともに味わい経験し、現在よりも一歩でも向上を目指す為、農民とともに手を取りあってゆく事を学んだ農大生はそれが可能であり、それを実践する事が使命であると自負しています。

## 学生時代

畜畜三年 足立正孝

学生時代——世間一般から見ると実にうらやましい時代ということであるが、実際本人達はどうかということもなく、「ユメもチボウ」もないような面をして昼メシを食って帰っているような気がしてならない。こんな偉そうなこと書いてる小生も実は今迄それに気付くことなく、二年半が過ぎてしまった気がする。

これが先輩に教わった「農大ボケ」かなと思うようになったのがつい最近のことである。

よくサラリーマンと呼ばれる人々と話していると「学生時代よく遊んでおけ」といわれる。そして学生時代に修めておくべき「三単位」があるという話も聞く。これは皆さんも御存知と思うが、パチンコ、マジック、ダンスだそうである。

実にくだらないと思う人もいれば、楽しいナと思う人も一部（？）いる複雑な単位である。これのいい点は必修じゃないことである。

この三単位はなんでも社会へ出たらその辺の専門科目より役に立つそうであるが素人が考えたと実に不可解な現象だと思える。

しかし判らないこともない。というのは専門と関係の

貴女が職場の空気を変える事が困難なのは、女子職員である為か、職場の上役（男子職員）が石頭なのか、その他諸々の要因がからみあってむずかしいのかもしれないが、もっとも意志を通していいと思います。ちよつとの事で反応がないからといって「社会とは複雑なものだ」「学生の考えは理想論にすぎない」とかたずけてしまうのは納得できません。貴女が男なら一緒になつて問題解決に熱中できたのに……でも貴女は女の子であり、永久就職（結婚）への道があり、現在の職場にあたらずさわらざるには無理からぬ事かもしれない。

僕は農大生の使命を背おって、たとえ困難にぶつかっても、それを念頭に忘れる事なく、大学で学んだ事を社会に即したものに於いて、夢を可能にするよう頑張る考えです。

「明日の日本農業農民の為に」

かつてなたわごと考えを書きました、卒業後も物の見方がちがっても、この先何年同じように務めているか貴女の場合疑問ですが、ともかく農業関係に職場を持つ身です。大いに語り、議論しあえる事を心から願っております。再会できる日を楽しみに さようなら

俊彦より

二月二十日

田子さんへ

ない所へ就職したりすると共通のものとして楽しむ為には例の三単位を修得しておいた方がよいような気がする。しかしこれは残念なことだと小生は思うのです。

我々は十二年間勉強してその結果「畜産」というものを選んだのだから……

しかし現在の勉強では「どつたらイイノ？」ということが先ず出てくるのである。

三年八〇人の実験に例えば顕微鏡八台という状態。

全員順番にやればイイといわれるかもしれないが、せいぜい一台の顕微鏡につけるのは三人、残りの七人は実にムダな時間を費やしているのである。

定員を少なくすれば小生など入学できなかったらうし、多くすれば前記の如くなる。かといって実験器具を多くする余裕もなさそうである。この際各自が一生けんめいやるよりしようがないのであるが、一台の顕微鏡に十人もむらがあつた所でやはりどうしようもないのである。

だがこのような現実において我々は講義を聴き、実験し、そして卒業していくという大きな視野から見ればくり返しをしているのであるからその中でより効果な勉強を自力で捜し出す以外に方法はないのであると思う。そうすることにより講義中に隣の仲間とガタガタしたり、実験が遊びと化したりすることがなくなるのではないかと思う。

何も誰の為にやるのではない。皆各自自分の為にやるんだから……



## 時の観念について

畜産三年 佐 古 憲 治

私達が日常、平々凡々と過している時間や、一定のサイクルでもって過している時間、例えば、学校における時の流れ、特に授業の時間、日常の続きとしての何もこれと違って変わったことのない日曜日や休日。

それは全く時間を持て余して「あゝ、まだあれから十分か、まだ午前中か」と、とても時の流れは遅く感じるものである。

しかし、日常と変わった、何か面白い事をしていて、自分の興味のあるちよっとした催し物に参加している時、一生懸命自分が何かに打ち込んでいる時、このような時間というものは短かく感じるものである。

それは、あくまで、その時点における感覚であって、今、私達が過してきた時の流れというものを振り返ってみると、日常のだからだと永い時の流れというものは一括されて、ほんの一瞬のようにしか感じられないものである。それに反して色々な短かく感じられた時というのは、それが楽しかったにせよ、悲しかったにせよ、強烈な印象を焼きつけ、時の一区画を見事に占めて、振り返っている現在においてはむしろ永く感じるものなのである。学校における生活という限定された場において、

## 夢の中の ヴァレンタインと妻

畜産四年 佐々木 登

心良い秋風に誘われて、私は一週間程京子と孝雄の前に現われなかった。

この一週間私はO・ヘンリーの代表的な短篇「改心以上」の主人公ゾミー・ヴァレンタインになりきっていた。だが誤解のないように述べるが、私は彼ヴァレンタインのように金庫破りではないし、それ程悪を職業ともしていない。ただ少なからず、私は彼ヴァレンタインを小気味よく思っている。又作られた金庫破りにO・ヘンリーの人柄を身近に感じ、同時に人間的面白さを私はかう。

世田谷の森に居を定めてかれこれ七年を経ようとしている。それなのに私は、この美しい森、世田谷に彼（ヴァレンタイン）を住まわせる事を極度に嫌う。彼に対する憧憬はあくまでも読者のそれであらねばならないし、而して欲望に影のある如く、表情に剣を作ってはいけな

い。

×月×日、私なるヴァレンタインは今朝疲労した躰軀を京子と孝雄の居るなつかしの下宿に帰宅させた。室には鍵がかかっていた。用心深い京子に私は今朝も感心せざるを得なかった。合鍵で戸を開くと、そこに下駄箱があり、洗面所兼調理場があった。しばらくそのなつかし

小学校、中学校、高等学校の十二年間を静かに想い起こしてみてもそれは鮮つきりいえると思う。

こうしてみると人間の感覚というものは、まったくあやふやなものであるといわねばならない。私達が自分の持っている永遠からみれば、ほんの一瞬間にしかすぎない「ひらめき」のような人生をより永く生きる為には、常に生活の環境を、生活のサイクルというものを変化させていく事が必要である。ある生活の環境に慣れたら、又新しい生活の環境に変えることにおいて短かい時の流れを永くすることが可能である。言い換えれば、生活には常に新鮮な精神の活動場を与え、常に、生き生きとした、澄んだ、鋭い精神活動を続けていくことによりその事は可能になるということである。

もし常にそういう事を考え実行した二十才の人が居たとすると自分の生活のサイクルの中で、無の抵抗をも感じる事なしに、人生を終ろうとしている人と比較して、時という点においては、すでにその人より多く過しているかもしれない。

の匂を肌を感じていると、何時起きて来たのか妻の恐れるような、悦びのような、安心感のような、何かを求めようとするような、とにかく異様な目で私をにらみ、その場に釘づけにでもするような威気負であった。彼女が如何なる表情を見せようと、とにかく不気嫌には変りなかった。

その瞬間とても私には真にヴァレンタインになる才のない事に気がついた。如故何等、私は素早く愛想を浮べて、ただいま、と弱々しい日常のあいさつをしたからである。然し、彼女はなんにも言わず、ますます不気嫌この上ない表情をつくった。次に私の胸を圧迫するのは彼女の顔の全てが私の身体から何かを嗅ぎとろうとする鋭い女の嫉妬の才であった。突然、全く突然私の唇から、静かに口笛が流れた。作者も、その題名も忘れたが……

貞女なる妻よ、戦い終りて私は今帰った

貞女なる妻よ、私の晴れ晴れとしたこの顔を見よ

私は腕に傷をしているが、君を見るとこの痛みさえ

私は忘れるのだ

愛しの妻よ、君のその微笑が私の傷への最大の薬な

のだ

さあ、もっと微笑んでくれ……云々

この昔の西洋の詩人が軍人達の勝利を祝して歌った歌。彼女はこの歌が好きで若い交際期間によく歌って聞かせ



られたものである。

彼女が怒った時や不気嫌な時には正直言って私なるヴ  
アレントインは負者になる。何故なら、私が彼女の泣き  
声を一晚中聞きたくないからである。もしも私が酒をの  
んで彼女を撲った時は、それなりに私にも武器がある。  
それは先程の口笛である。

私の本能は私の無意識の内に私に口笛を吹かせた。彼  
女は身動きもせず、魔法にかかったように私の目を見て  
いた。

「静かだ、静かな朝なのだ、京子!! 私は今帰った、笑  
ってくれ!!」

私の目は彼女の目に問いかけた。「貴男の胸につけて  
ある赤い羽根をちょうだい」彼女の美しい唇からききと  
れぬような小さい言葉だった。私は街道で小さい女の子  
からいただいた直赤な羽根を胸から外して、彼女の手に  
わたした。彼女はそれをエプロンのポケットに止めると  
にっこり笑って、いつもの彼女らしく「さあ、食事の支  
度をするから調理場の前からどいて下さい。」と短く命  
令した。すれ違い際、妻の太り出して来た腰をポンとた  
たい孝雄のフトンにもぐりこんだ。

私は一週間会っていないだけに、孝雄はすっかり  
大人になっていた。妻に似た長いまつ毛、可愛い鼻に汗  
をかき、小さい真紅の唇が息をしている。調理場で自信  
にみちた、妻の野菜を刻む包丁の音が心よく、軽ろやかに  
私の耳にひびいていた。

私は閉じられた眼の下で、妻に内緒のヴアレントイン  
になれた事を小気味よく思って、又夢の世界に入った。  
昭和三十九年十月三日



## アンケート

六十五年の定期総会が終って、すぐ新しく選ばれた執  
行部は、今後より有意義な活動をするため、左記のアン  
ケートを行ないました。

四〇〇余枚中六一枚回収しました。アンケートは、よ  
り具体的多くの意見を出してもらうため、記述式にしま  
した。

### 第一回アンケート

六五、一、一一

新執行部は「畜友会活動は会員の要求に基ずく活動で  
なければならぬ」と考えておられます。また我々は、み  
なさんがどのようなことを執行部に望んでいるかを知り  
ません。

このアンケートはみなさんの要求がいかなるものであ  
るかを知るための第一次の調査であります。従ってこの  
アンケートの結果は年間約六十万円と言う多額の予算を  
もつ畜友会の今年度活動方針を決定する重大な資料とな  
ります。みなさんは年間七五〇円の会費を収めているの  
です。四年間で三〇〇〇円ノ、みなさんは畜友会に対し  
て大いに要求する権利があるのです。下記の質問に応じ  
て畜友会に対する要求をのべて下さることを強く希望致

します。

四十一年度畜友会執行部

1. 現在までの畜友会についてあなたはどうか考えていま  
すか。
2. 畜友会という名にあなたがれを持ったが、入学して  
今まで一、二回の活動では消極すぎる。
3. 活動がなさすぎる。
4. 何を目的として畜友会を運営しているのか。
5. 畜友会のみより前進を望むなら、畜産の学生、諸先  
生方全ての努力が絶体に必要なものである。
6. なかなか良かったと思う。
7. 全く無感心。
8. 何が何んだか解からない。
9. 一年生にもっと色々な課題を出して、いろいろ  
仕事を与えて欲しかった。
10. 単なる形式的な組織であり、毎年形式的なことを  
やり、会員の納得のゆく活動はなにもしていな  
った。
11. 誰の畜友会であるのか?  
役員が動いているだけでつまらない。でもこれは  
役員に責任の全てをなすりつけるだけでいいとは思  
っていない。  
新入生歓迎会や、映画会、見学等をするくらいのも  
の思っていた。



12. 名前だけで、どんな活動をしているのか目につかなかった。
13. 要するに、今迄の執行部には皆んたと引っぱって行くだけの魅力に欠けていた。そしてその裏には活動が少し消極的であったと同時に四五〇人の会員の中で畜友会の事に関心をもって、色々な会合に出席した人は何人あるかと言いたくなるような状態であった。それは役員の連絡も悪かったかも知れないが、熱意があれば、その位の事は何でもなかったはずである。
14. 畜友会の行動は、我々一人一人と共に歩んでいない。行動内容が非常にヨウチであると思う。畜友会とはただ名前だけで、学生と分離している。あまりにもマンネリ化しすぎて活動の進歩性がなかった。
17. 役員として、実際にやって来て感じたことは、まず畜友会が決められた行事に追われすぎたということ。年間の行事を決め最少限度これだけはやらなければいけないというワクにはめられて活動してきたので会員と離れすぎたのではないのか？

二、畜友会が存在することを必要と考えますか。

1. 正直言って、雲の上で行なわれている様な気がする。組織があることは認めるが、その組織内で活動しているだけでより多くの畜友会員にアピール

であるから。

三、今まで何故畜友会に関心がなかったのか。

1. 型ばかり考えて、会員に親近感、魅力がうすかったと思う。
2. 畜友会の実状が解らなかった。
3. 興味を引くようなのがなかった。
4. 連絡が悪く、どんなものが、何時開かれるのかわからされていなかった。
5. 重要性がないと思っていたから。
6. 学生との間に親近感がなかった。
7. こんなことを問うこと自体どうかと思う。僕としては影なりとも活動し関心をもっている。
8. 最底だった。少しも関心がなかった。
9. どういう活動をやっていたのか全然わからないので、関心がないのは当然である。
10. 数少ない活動であったので、会員であることを忘れてしまっていた。

四、畜友会に対して何を望みますか。

1. 年に二〜三回の畜友会の旅行（校外実習）を望む。
2. 各研究室の発表会等を行なって欲しい。
3. 畜産談話会（畜友会主催のものでありません）をもっと内容のあるものにして欲しい。一年ではあ

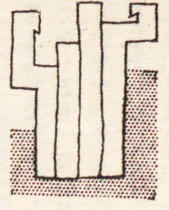
2. タテのつながりタテのつながりと言うが、クラスの人数が一〇〇人以上なのだから、まずクラス全員がみんなの顔ぐらい憶えて、いろんな問題についてクラスで話し合えるようにして欲しい。
3. 形式的なものである以上、存在する必要がないと思う。
4. 学科のタテのつながりは研究室だけ——これでは足りない、だからその為にも畜友会は必要である。参加しても、つまらなそうな気がした。
5. 今までと同じような内容であつたら認めたいが、内容がもう少し豊かになつたらいいと思う。
6. 産学の学生同志の連帯感を作るようにしなければ、存在しなくともいい。
7. 一応存在することは認めるが、今年の執行部のやり方と、会員がどの位まで熱意をもってついてくるかで決定すると思います。
8. 畜産についての予備知識を得るために必要と思う。やはり同じ学科の中で生活するのであるから、その中のタテの関係を深めるということは大事だと思ふ。ヨコの関係はそれ以上に大事だろうけど。そういう意味でそれを速やかに行なう機関が必要
9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.

する面が少なかつたと思ふ。  
一年生にとって最初の不安な気持ちのより処として、又又畜産そして農大の発展の為に是非そのかけ橋となつてもらいたい。

4. 自由意志で参加できるようにして欲しい。
5. 親睦はもち論のこと、いろいろな問題について話し合える会を作って欲しい。
6. 一年生諸君の前で畜友会について、説明したらどうでしょう。私は畜友会存在の意義は解りますが、進歩のない畜友会だしたら無い方がいいと思ふ。
7. 講演会を多く開いて欲しい。小人数の討論グループでもいい。ふだん学校の授業で聞くことのできないものを作って欲しい。
8. 見学、実習を畜友会で主催して欲しい。執行部に一任する。
9. 連絡をしっかりとってもらいたい。
10. 全員参加という型でなくとも、日曜日に気楽なハイキングのようなものを作ってもらいたい。
11. 先生ともっとお話をしたい。
12. 一年からも研究室に入れるように、もっと研究室の設備、その他の機関を拡充してもらいたい。
13. 内容はともかく、今の段階では全員が参加できるようなものを作って欲しい。
14. 畜産の学問だけではなくそれを生かすためにも畜産の置かれている今の社会の現状について、学べるようにして欲しい。
- 15.



16. 学習会——農業経済学、歴史を学べるようにして欲しい。
- 18.17. 現在の畜産界の動きに対する講演。金にはあまりけじめをつけない事。そして講演会といったような事、又見学、このようなことをどしどしやってくれるよう望みます。
- 20.19. 「ふじみの」の年二〜三回の発行を望む。畜友会の計画表を畜友会本部の前に掲示するか、プリントして渡すかして欲しい。
21. 日本畜産の現状を認識し、明日の日本畜産の為に我々の畜友会は足がかりとなって欲しい。
22. 小規模でもいいからゼミや、研究室の発表のようなものを作って欲しい。
23. 講演会（年二回）、特に実際畜産に従事している人。
24. 他校交換会
25. 畜友会の取るべき態度というか、何の為に存在するのかということをはっきり打ち出し、その方向をしっかりと確かめてから活動してもらいたい。本当に意義ある組織であって欲しい。
26. 単なる親睦団体で終わってもらいたくない。会の中に研究機関を持って欲しい——家畜別の研究グループ、経済学的グループなど。



荒野

荒れはてた野  
そこに育つ一本の草  
水もない  
影もない  
あるのはただ風アラシ  
強い風が小石を巻き上げ  
太陽が水を奪い去り  
地の中まで渴き  
一滴の水さえ草は得る事が出来ない  
けれども草は育って行く  
一度雨が降ると  
乾いた土は飛び躑ね  
雨に流され  
草は根をあらわにし  
雨に打ち倒され  
やがて日に照らされる  
苦しそうに  
しかし草は地中深く根を張る

山坂 誤浪 太

地球の中心に届けとばかりに  
太い根を降ろし  
網の目のような小さな根を張り  
どんなに雨が降ろうと  
土を取られようと  
しっかりと大地についている  
馬に踏まれ 動物によって踏まれても  
苦難をあまんじて受け  
じっとこらえている  
いつか仲間が出来  
自分達の世界の来ることを  
きつとやって来る己の世界を夢みて  
実がなり  
草が繁って  
緑の原になることを  
一人静かに待っている



鳥

柿の木の枝に鳥が一羽  
冬枯れの枝に  
たった一羽で止っている  
鳴くでもなし  
飛ぶでもなく  
ただ静かに止っている  
たった一羽のかわいい文鳥  
冷い木枯の中に

中野佳子

声をかけて見たくなくなって来る  
どこから逃げて来たんだ  
.....  
私は母を呼んだ  
母は振り向いた  
鳥は飛び立った  
ただそこには黒い木の枝が  
木枯の中で吹かれて揺れていた

随筆

「ある断想」

吉村喜彦  
(講師 畜産学科主事)

ある晴れた日の、昼食時の一とき、研究室で学生達は話し合っていた。「アメリカでは、大学生に徴兵延期資格試験をするらしい。ピリの方から三分の一以下は、兵隊にとられるらしい。」「オイッ、お前は、こんな処にのんびりしていて、ベトナムに帰らんでよいのか……」これはM君の人相が、あちら的なので学生達は、いつもからかうのである。

「アメリカ人だったら、さしづめ俺なんか引っ張られる口だな」「日本人に生まれてよかったナ」

私は、この会話の仲間之首をつっこんだ。  
「言論の自由、思想の自由、学問の自由、個人の尊重等々。日本ほど平和な国はないのだよ。君達は、平和になれ切って、平和の有難さ、現在のこの平和の、もたらされた過程を考えたことがあるか。この平和を獲得する

ために、君達の先輩達は、沢山死んでいったのだ。君達今話し合っている隣人が、やがて戦争で死んでいく、そんな場合の相互の気持を想像することができるか」「できません。」

現代の青年達が戦争と平和、束縛と自由について、実感として受けとれないのは、当然であるし、観念として理解することも、容易ではないだろう。それは、余りに平和に慣れすぎ、平和とは煙草のピースの積なり、ぐらいのところ、通りぬけているからである。

私は、戦中派の一人として、平和を望みつつ戦線に散っていった多くの学友(靖国神社の英霊……毎年八月十五日終戦記念は、その前後に参拝している)の代弁者として、機会あるごとに、若い人達に、平和と、この平和がもたらしたゆえんを、アップピルしていきたいのである。

次の一節は、私が未だ農大の学生の頃で、戦時中、某一流新聞に掲載された記事の一部である。

「某農業大学の応援歌に……昔も今も変わらない、人間喰わずに生きらりゃか、命あってのものだねだ……とある、この非常に、こともあろうに、命あってのものだねとは、何事か、しかも、それを平然と歌っている。非国民も甚々しい。」



当時、農業大学という名の単科大学は、日本で唯一つわが農大だけであったし、青山ほとりの歌詩の一節であることは、読者も一見して判った。当時の学生達は、皆心の中で「クソッ」と思った。しかし抗議するものは一人もいなかった。何故なら、非国民として、特高警察に留置され、いつ釈放されるかわからなかったからだ。(非国民……命の惜しい者、戦争反対者)

このような国家、社会的背景のもとに、学生も学者も、学問や研究の自由を喪失し、「平和」とか「自由」という言葉は禁句になった。やがて、大学の理・工・医学三学部を除く他の学部学生に対する徴兵延期は廃止され、私達は、全学一斉に休学願を教務課に出して、あのいまわしい第二時大戦に参加させられたのである。大学に残った学生は、未成年者と徴兵身体検査の不合格者だった。やがて、戦争が終り、生きて帰った学徒兵達は、再び母校に戻って来た。青山の大学は横井講堂と図書館の書庫を残して全焼してしまった。呆然として世田谷へ、たどりついてみると、旧陸軍の兵舎ばかりで、何処が教室か、先生方(平林学科長は、丸坊主で、軍服、軍靴姿でリリシかった)は、何処の部屋におられるか、探し尋ねる状態で、本日休講の掲示ばかりには、全く情なかった。そして、更に悲しかったのは、一緒に学窓をあとにし

た学友達の姿が、そろって再び見られなかったことである。彼等は卒業せずに戦死したため、校友会名簿にもない。後輩の人達は知らない。しかし、彼等のギセイの上に、今日の日本の平和があり、わが農大の学問や研究の自由、発展もあるのだということを、どうか、学生の皆さん、あとから続く人達に、語り伝えていていただきたいのです。

## 雑感

人喰(飼養研の学生諸君へ)

助教授 杉村 敬一郎

人を喰った話をしようと云うわけではありません。飼養研究室のあり方などについて書けと云う編集者からの御注文だったと思うので、何か書かなければならないのですが研究室のあり方など、いう大それたことを云う資格などないので、自分なりの生き方の一端としての意味で記させて頂きます。

東海道は興津の町に清見寺と云う古いお寺があります。その庭に榎本武揚の記念碑があり、その題字が本文の表題です。

人のために喰うものはその人のために死す

武揚は本学の創立の恩人であることは人の知る処ですが、一身の仕えた徳川のために、またその徳川のために働いた人々が維新後に生活して行けるように、これらの人を北海道に入植させようとして、その案が維新政府の

容れるところとならず、いろいろの経過のうちに五陵郭にたおれたわけですが、この碑に云う言葉は、その仕えた徳川が不利な立場になったり、または終えんとしても、その一身が生活させてもらったからには、そのために粉骨砕身した武揚の生き方をたゝえたのだと思います。とかく功利にはしり勝ちな、また好まなくても多少ともそうしなければ生きて行けないようなせち辛い現今の社会にあって、こんな精神で生き抜いて行けたらよいと思っています。生き方は古くさくても研究の方は常に新しいものを追っていなければならずそのあたりを両立させることが吾々応用部門の科学をやる者にとっての必要な条件でしょう。飼養と云うことの根底はやはり生物が生きて行く原則的ルールにあると思います。研究の対象や研究方法の論及にあっては常に進歩した事象をとらえていなければなりません。生命の原則にしっかりと立脚して物を考えることが大切ではないかと思えます。明日すぐに実施の場で役に立つような工夫と研究はもちろんのこと、基礎的な面での研究も常に他の機関に負けないような水準を保ち、これにたづさわった学生諸君にとってその研究を行なったことが何等かの形で将来プラスになるようにと願いながら研究テーマを考えるわけですが、室員の皆さんが一緒になって考えて下さることが大切な



になりました。おゆるしのほどを。

### うそとほんとうのモルモット

石 島 芳 郎

ことだと思えます。入室するまでに色々な講義でおぼえた知識が、生きた姿となって身につくのは卒論の研究であって、これがやっと学士号をほんものにすための必要な過程であり、その卒論の研究が飼養研の学術的水準を高めるためのなくてはならない要因であることにほりを持って勉強して下さることを願っています。たくさん働いてタッタ四単位では損だなんて思わないで。この際「実験」と「研究」との関係についてちょっとふれておきたいと思えます。吾々の科学の分野ではどうしても、「実験」によって事象を明確につかまなければなりません。しかし、いくら「実験」を積み重ねても並べて立てゝもそれだけでは「研究」にはなりません。従って卒業「論文」になりません。「実験」や調査によって確認された「事象」や「事実」が研究者の頭脳によって「解釈」され「論究」されてはじめて「論文」となります。だから「文章に表現されてはじめて「論文」となります。だから「実験」は吾々の科学では「研究」のために絶対必要な要素ですが、それだけ並べても「研究」とはならないわけです。四年間にたくわえた技能をフルに生かして「実験」し、また知識を総動員して論文を書き、楽しい学生生活の仕上げをこの研究室でやって下さい。終りの方は表題と関係なくなつて、ほんとに人を喰つたお説教みたいに

俗に「モルモットにされる」ということばが実験用に扱われるといった意味で使われているが、これは実験動物のモルモットの扱われかたから変じたものである。ところが本場のモルモットに該当する動物は、ヨーロッパに棲むマーマット *Marmot* とよばれるリス科のけものことで、実験動物モルモットは天竺鼠(テンジクネズミ)が本名である。したがってモルモットはあきらかな誤称で、正しくは「テンジクネズミにされる」でなくてはならない。しかし、モルモットの名がテンジクネズミの俗称として普及してしまい、本名では動物の姿をおもいだしてくれる人のほうが少ない現状では、これではピントこないと思う。

である。西尾、岩淵編の国語の辞典には、モルモットのことを「テンジクネズミのことを誤り称したもので、本場のモルモットはリス科の動物のことである」と書いてある。英語の辞書でモルモットに該当する *Marmot* を

ひくと、マーマットはアルプスやピレネに棲むゲツ歯目の動物で、アメリカ産の *Woodchuck*, *Groundhog* などは同類、モルモット *Guinea Pig* とは別であると書いてある。動物図鑑の類ではテンジクネズミを

しらべないとモルモットの説明がない。誤称がまねいた一害をあげると金田一編の国語辞典にモルモットのことには、「〔*Marmot*〕 てんじくねずみ科の小型のほにゆう動物。形はウサギに似て耳が小さい。てんじくねずみ。実験用」などと書いてある。この場合、英名を *Marmot* としているのだから説明はうそになる。なぜならテンジクネズミの英名は *Guinea Pig* だからである。

では、なぜテンジクネズミがモルモットとかわつてしまつてしまつたかという点、オランダからすでにまちがつたまま伝わつたためと考えられている。この原因としては色々いわれているが、テンジクネズミがマーマットに似ていたためとか、書物の図と名称がいれかわつていたためとかいわれている。そこで本来の動物マーマット

といささか縁遠いテンジクネズミがモルモットにされてしまい、誤りのモルモット、正しいモルモットなどとややこしいことになつてしまつたのである。

動物の名はよほど注意しないと物議をかもしたもので、声のブッポウソウと姿のブッポウソウの話などはよい例である。気の早い連中が *Guinea Pig* はテンジクネズミと称されているのをしらず、学会でどうどうギニヤブタと称したという逸話もある。

誤りのモルモットことテンジクネズミ *Guinea Pig* はゲツ歯目、テンジクネズミ科に属する動物で、ペルー産のクロテンジクネズミを養畜したものといわれる。イヌカ人は数百年前からこれを家畜として食用に供したという。今日、実験動物として用いられていることは衆知の通りである。

正しいモルモットことマーマット *Marmot* は同じくゲツ歯目に属すが、リス科の動物でヨーロッパのアルプスに多く棲む。アメリカ、オーストラリア(タルバガンもその一種)などにも同類がいる。実験動物ではないがベスト菌をもっているの知られている。というわけで、私たちがモルモットとよぶ実験動物はテンジクネズミのことで、モルモットに該当する動物はリスの仲間マーマットである。がいかなせん天下の大勢がテンジクネ



ズミをさしてモルモットで通用するのだから、今さら改名するのもむずかしいが、せめて実験動物を扱う機会の多い私たちは心しておかねばならないと思う。

(家畜繁殖学研究室、助手)

## 続・友への手紙

講師 伊藤 澄 磨

貴殿に手紙を書いてから、はや一年の月日が過ぎて行った、長くそして一瞬の一年であったと思う、年廻りとも云うのだろうか？ 我輩のまわりの学生達にとつては一年、それは貴重なものであったであろう。昨年貴殿に書いていた頃は未だ可愛らしく、サバンナで穫れたような顔をして居た一年生もや、牡相を呈し、都会の学生らしくなり、四年生はそろそろモーニング、白手袋が似合いそうな面魂になって居る。 CHOWDRA。美しく、背筋が伸びる言葉だ。

過日所用で出張しての帰り道。国道十六号線。道は平坦。交通量極く僅か。晴無風。云うなれば絶好のドライブ気分。ラジオからは「リンデンバーム……あなたのお口づけ……云々。可愛い子チャンの歌に一人ボケランチャンとして楽しんで居たと思え。(早まってはいけない。交通事故をおこしたわけではない念為)。

リンデンバーム……アルト・ハイデルベルヒ……ザクソン・プロイセン団の合唱。ジョッキのガチャツキリユーダーの家の大広間、実際見て来た様な、カル・ハインリッヒ殿下とかって一緒に飲んだような気分になる。不思議な言葉だ。//アルト・ハイデルベルヒ”

「我輩のアルト・ハイデルベルヒ」そこにあるのである。矢印で右へ十二キロ茂原とある。

前置きが長かったが、吸いつけられる様に右折し茂原へ向った。何の為？ ガソリンの浪費、エンジンの消耗そこに我々のハイデルベルヒがあるからだろう。道は二級国道らしく悪いが至極良い気分であった。見覚えあるとなりの町の曲りくねった街を抜ける所にトリ屋がありこゝのカミサンは我輩をデッチ小僧としてユキ使うとその昔云いやがった所だ。下りて小便でもかけようと思つたが人がいたから止めた。西の街道を通る、連夜激闘がくり返された古戦場である。街は賑い自転車とバイクがあふれて居た。昔とちつとも変らない店、大改造して見違える様な店、しかし中にある顔は変らない様だ。只頭髪とシワが馬鹿に目立つ。十数年の月日は長い。我々のケティ、大きなお店のマダム然として小さな女の子をあやして居たっけ、再会は忘却の中には無い。月日は全てを流して居る様だ。失恋中の我輩をペテンにかけた牧師も、農大をムコに欲しがって居た後家さんも、街一番のケンカ好きも。高校の前から二又路を左へ、松林だった所に家が並び雑貨屋が交る。突然右に白いコンクリート

のビルが現われる。小学校と書いてある。本館跡だ。試験が終りよるこんでとび出し足を折った所、オバケが出る室がある本館、それからは全てビルの下だ。それが終ると一面の草原だ。松もほとんど無い。研究室、家畜舎一切なく草原の中にポツンポツンと申訳けに住宅が見える。草原の中に小川があったな、カイボリをする。そこに赤毛人の子が二人で魚を取っている。相像もつかない図だが、放牧場には未だ絶え切らない一握りつつの牧草が雑草の中に生きている。これらが最後の農大関係者となるのであろう。何か達者でいて呉れと云いたい。しかし驚いた事だ。農大が移転して何年になるが前述の態たらくだ。茂原市はよほど困って居るのかな。中には分譲の札まで出して居るが一向に開発される様子もないな。貴殿の懐中具合が良ければ全部買ひもどして呉れないかと云う訳で「我がハイデルベルヒ」はインカ帝国の様になった。ハインリッヒ殿下は再会した「アルトハイデルベルヒ」は御不満の御様子、しかし彼はしあわせだ。そこに存在したし、ケティにキスも出来たろう。我輩は肥料臭いホコリをかぶり空っぽのノスタルジアに口づけし、雨に変わった国道を帰って来た次第だ。古い都は実存はしなかった。しかしそこで得たものは保在しよう、そして何等かに昇華させよう。豊かな心を眠むくなつたから又書こう。達者で

## 我は鉄なり

きたえられるにしたがって

われは強くなるべし

わが弾力はますべし

われは鉄なり

おそるることなし

悪魔よ 神よ

われをきたえよ



# 研究室便り

## 家畜繁殖学研究室

家畜繁殖学研究室が今日の姿に到達する迄には可成りの紆余曲折があった。茂原に畜産学科があった初期の頃には、育種や繁殖という名称はなく畜産学研究室と畜産化学研究室の二つに分れていた。その後研究室の機構が変わり、畜産学研究室の主流は家畜育種学研究室に、その一部と獣医学研究室とが合併して家畜繁殖学研究室に変更した。昭和三十六年、この年は畜産学科にとって大きな事態に遭遇した年である。つまり茂原より本校への移転である。この際に繁殖学研究室の中に「畜産研究室」の名称で長く親しまれていた本校の研究室が包含された。この「畜産研究室」こそ現在の研究室の母体である。次いで三十八年四月の緑合

研究室への移転に至って現在の家畜繁殖学研究室が新生し、従来の母体は再び獣医学研究室として本来の姿に戻ったわけである。この様な次第で、独立した当初は古い戸棚と学生用の机が数個あるのみで、実験器具は殆んど無い状態であった。しかし、その後の教師と学生の絶ゆまぬ努力によって僅か四年たらずの間に今日のような隆盛をみるに至った。無一物からこのような発展を、しかも極めて短期間になし遂げた事実からも学生と教師がいかに意気投合して事態を処理して来たかが判ると思う。

一 教授人容 当研究室の構成は科長の平林忠教授を室長に、一戸健司助教が研究室の中核となり、石島芳郎助手が推進力となって三十名前後の学生を指導している。

二 研究内容 研究内容はその人容から次のように大きく二分される。  
④ 平林教授・石島助手による家兎、ラット、マウスを主とした哺乳類グループ。

平林教授は理事、科長等の要職に

他側卵管摘出家兎における卵子の移行と妊娠の研究(長尾登) ○未成熟家兎の排卵誘起に関する研究(福田善機) ○鶏雛の孵化所要時間と雌雄比との関係。ロッドアイランドレッドとロッドアイランドホワイトのF<sub>1</sub>について(吉本邦泰) 大日本農會賞。

## 家畜育種学研究室

四 昭和四十年の卒業論文のテーマを紹介すれば次のとおりである。  
○家兎の過排卵誘記に関する研究(秋野豊男) 科長賞 ○鶏、アヒルの受精率および孵化率の季節的変化(池上邦昭) ○鶏の繁殖生理に及ぼす非チアゾリウム型B<sub>12</sub>の影響、第二報(小野賢二) ○PMSによるマウスの過剰妊娠に関する研究(高橋正浩) ○鶏と鶏の属間雑種に関する研究(中彦一) ○片側卵巣と

家畜育種学研究室は鈴木正三教授を室長に田中栄一講師、渡辺誠喜講並びに家畜血清学研究所及川勤助手さらに今年迎えた金城英企副手の諸先生と研究室卒業生による特別室員と、専攻学生及び大学院学生による普通室員により構成されている。本研究室には山羊、家禽、兎、モルモット等が実験動物として飼育され学生は常に家畜に接しながら各種の現象を探究する機会が多く室員は恵まれた環境にあると思う。

あるため、この方は石島助手が中心となり、その研究テーマである卵子の実験が主軸となっているが、その内容は、過排卵誘起、受精卵の移植過剰妊娠(多受胎)、卵子の試験管内保存、卵子の子宮内移行、卵巣の眼房内移植などで、兎、その他実験動物を使って行っている。また最近、毛皮獣の繁殖の研究もはじまった。

⑤ 一戸助教による家禽グループ 当研究室の発展は一に当助教の双肩にかかっている。従って目下のところ実験分野は広いが、その主なものは、孵化所要時間と雌雄比との関係、家禽の人工授精、人工授精による鶏と他の禽類とのF<sub>1</sub>の作出、鶏の繁殖生理、家兎糞の添加実験、添加物による産卵生理、受精、孵化率の探究から卵質の問題にまで及んでいる。

ゼミナールは週一回全員による討議の外に、各哺乳類、家禽グループ別に毎週別個に外国文献を中心にした勉強の会をもうけている。

三 卒業生及室員の動向、卒業生

研究室活動の目的も家畜育種学の基的、応用的学問の追求であるが特に本研究室は血清学をその方法論として採用し学生が希望する研究の場を提供している。

外部活動も活発に行われ本学、名古屋大学、鹿児島大学の三大学合同在来種調査も今年で第五回を迎え、各方面から注目されている。今年は台湾、朝鮮を調査し、行く行くはフィリピン、インドネシア、インドさらにはハワイ諸島が調査地として予定されている。

また各大学や研究機関の先生方を招き、特別講演をお願いし知識の吸収に余念がない。

毎週の活動として談話会を行い、学生の自主的な考えにより出されたテーマについてゼミナールがもたれている。加えて室報の発行特別室員との交流も重取な活動である。



## 畜産物利用学研究室

最近国民食生活改善がさげばれ、畜産の重要性が重視され、特にその一部門として食肉加工は増々発展のいきまをたどっています。

当研究室は昨年七月をもって乳部門と別かれ新しく畜産製造学鬼原研究室と改名され、更に四月より畜産物利用研究室と改められ大きな躍進が約束されている研究室です。

今ではこの時代に即応する立派な加工室も出来上がり、実験、実習時において、我々は加工機械の操作、加工技術の取得に勤め、出来上がった製品に対して分析、風味の検査等新製品の作出にも心がけています。今や食品加工は畜産の柱としての成長産業として期待されている、こうした時期に我々が社会に出て活動する基礎の場として又立派な社会人としての鍛練の場でもあります。技術取得のみならず人間関係にお

いても、なごやかに又きびしく人生について話し合います。週一回のゼミナール、談話会を開き、学問追求に励んでいます。

我々は鬼原先生、松岡先生の下に室員が一致団結して頑張っています。そして優秀な技術者として社会に巣立つ事でしょう。

当研究室の構成は次の通りであります。

室長 鬼原新之丞

助手 松岡 昭善

学生室員 三十七名

## 畜産経営学研究室

畜産界の浮沈は経営の双肩にあり。これが砂川、吉村両先生以下、室員四十余名の意気でもあり、見解でもある。計算器まわしの毎日ではあるが、その行動範囲は広く、関東近県は勿論、北海道から九州まで、今や当経営研の名声を広めつつある。現

在、酪農班、養豚班、養鶏班、肥育牛班の各班ごと、年二回の経営実態調査(うれしい行事である)、集計、指標算定と経営(経済)の意図をつかもうと懸命の努力である。経営学が重要視されてきた現在、研究室の活気はあふれんばかり、又室員もあふれんばかり(うれしい悲鳴ではあるが)、一般農家の糧になる資料を標準値をと意気盛んである。又先輩、現室員にも自営者、自営希望者が多く、畜産界の将来が期待されることしきりである。研究室自体はまだ五年という若さであるが、創設期の楽しさ、砂川先生のたのもしさ(ウエイトばかりのせいではない)それに若さと、経済学のオースリテイの吉村先生も加わって、毎日のデイスカッションに花が咲き、独得のユイモアがみなぎる研究室である。もうける畜産、だれしも考えることではあるが、実行は難しい。その困難を頭脳と計算器で分解つけ、自営で打破し、経営研在室中の実績を証明せんと、はりきぎる研究室でもある

## 獣医学研究室

当獣医学研究室は、広義の獣医学の研究を目的としていますので、衛生防疫、飼養管理、繁殖実験、繁殖障害の研究、疾病に対する処置、血清学的診断等の広範囲に渡って研究活動を行っております。又これらの研究を進めて行くにあたりましては、室員各々が自分達の身をもって体得していく事を根本といたしまして、室員一同、研究に励んでおります。又本年度は、新たに、川島先生「教授」をお迎えして、従来の平山先生「助教」、近江先生「助手」と三人の先生方より御指導頂ける様になり、室員一同、非常に喜び、大変心強く思っており、より一層充実した研究室活動を進めていこうと努力しております。研究室では週一回のゼミナールに於いて、前述の様に、各々の室員が自身で体得するよ

二回談話会を行い、研究室の運営、室員相互の親睦を計り、大学生活を有意義に過ごす為に話し合う場としております。

又、家畜診療所に於いては、内部外部の患者の診療が行なわれておりますので、先生方の御指導のもとに、我々は、少しずつ経験を豊かにしております。

当研究室の構成は次の通りであります。

川島

室長 平山常雄

近江弘明「獣医師」

学生室員

総員三〇名

「殖殖学科五名、短期

農学科一名」

特別室員

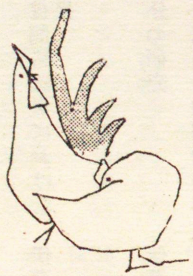
総員五〇余名

なお、四十年卒業されました当研究室の諸先輩方は、官庁関係、経済連、養畜場等、多方面に就職された他、ブラジルに行かれた方や獣医学へ進学された方等、皆各々の目

的に向って進んでおられます。

以上の様に、当獣医学研究室は、先生方の、温かい教えのもとに、尚一層の飛躍をめざして、我々は、研究に、交友に、大学生活を、むだなく過す為に、活動を行って行こうと思っております。

幹事 渡辺記





昭和四十年年度  
卒業論文題目一覽表

畜産学科

氏名	論文題目	指導教員
泉 信行	子宮頸管粘液の性状について	平山
秋野 豊男	家兔の過排卵誘起に関する研究	平林
新井 哲朗	マント肉の磷酸、食塩及び燻煙成分の滲透に関する研究	鬼原
有福 雄一	経営類型別飼料構造と乳質との影響	砂川
伊藤 御桶	鶏の消化に関する研究	伊藤
飯塚 正毅	チーズの熟成に関する研究	山中
池上 邦昭	鶏、アヒルの受精率、孵化率に及ぼす季節の影響	一戸
石川 徹	ジャージン中における沁乳と後軀体型との関連についての考察	伊藤
今中 啓一	加糖煉乳の乳糖植種に関する一考察	山中
宇田川 征彦	動物油酸敗防止に関する研究	鬼原
梅田 孝文	和牛による澱粉質飼料蒸煮における肥育に対する効果	伊藤
江頭 正俊	産卵に要する養分の研究	伊藤
江川 敬三	草地改良計画と造成費の相関的経済性	砂川
江口 真	鶏の消化に関する研究	
小川 徹也		
小田 徹	環境条件を異にする豚の肥育の検討	鈴木
小野 賢二	鶏の繁殖生理に及ぼす非チアゾリウム型耳の影響(その二)	一戸
大賀 四郎	物的装備と資本装備の相関的關係に関する研究	砂川
大貫 勝彦	鶏の消化に関する研究	伊藤

岡田美夜子	鶏の血精Cholesterolに関する研究	鈴木
奥田 茂	鶏肉の食塩及び燻煙成分吸収に及ぼす蔗糖の影響について	鬼原
川上 隆史	乳酸菌飲料の製造に関する研究	山中
河合 永忠	鶏肉化学成分及び保存性に及ぼす殺前処理の影響	鬼原
木原 攻	ポークソーセージの保存に関する研究	鬼原
菊田 義人	糖溶液の乳酸菌に及ぼす影響について	山中
銀山 健	老鶏肉の利用に関する研究「鶏肉ソーセージについて」	鬼原
草野 福稔	コクシジウム症に対する治療剤の検討	平山
黒田 正晃	総合ビタミン剤給与の育雛に及ぼす影響	平山
小池 文男	山羊ヘモグロビンの種属特性について	鈴木 渡辺
小林 靖幸	貧血治療鉄剤の使用効果について「犬の貧血に対する効果」	平山
金野 俊彦	草地酪農経営の飼料構造とその収益性について	砂川
佐藤 常夫	産卵に要する養分の研究	伊藤
佐野 宣雄	市乳の殺菌方法と保存性について	山中
坂井 忠衛	冬期(一〜三月)粗飼料給与量と空胎期間の關係	伊藤
酒井 朋子	夏季における育雛対策	平山
境 敏光	市販大豆蛋白質中における蛋白分布について	山中
沢田 洋	鳥類脂肪の酸化防止に関する研究	鬼原
三宮 洋一	市販大豆蛋白質の一般組成について	山中
塩田 弘文	鶏に関するビタミンKの血液生理的觀察	鈴木 渡辺
篠宮 孝	プロイラー養鶏経営分析における経営診断指標の設定と標準値に関する研究	砂川
柴谷 雅治		
下瀬 義宏	産卵に要する養分の研究	伊藤
庄子 富芳	養鶏の飼料費の限界効率について	砂川



城田 豊穂 濃縮乳の製造と保存性について 山中  
 杉本 健之 工業用バターに関する研究 山中  
 鈴木 秀夫 雛におけるブロリンの過剰投与につ  
 いて 伊藤  
 関口 哲夫 クリーム泡立性に及ぼす乳化剤の影  
 響について 山中  
 田川 禎昭 鶏肉に関する研究  
 保存性に及ぼす糖給与の影響につ  
 いて 鬼原  
 田中 収 市販チーズの保存に関する研究 山中  
 田中 牧生 高近交系アルビノ・マウスにおける  
 体重の遺伝力と遺伝相関 柴田  
 田村 卓示 雛におけるブロリンの過剰投与につ  
 いて 伊藤  
 田村 宏 雛におけるブロリンの過剰投与につ  
 いて 伊藤  
 高橋 正浩 マウスの過剰妊娠に関する研究 平林  
 竹重 隼男 ヨーグルトの製造に関する研究 山中  
 谷本 克則 産卵に関する養分の研究 伊藤  
 淡輪 昌治 鶏の消化に関する研究 伊藤

角田 幸雄 雛におけるブロリンの過剰投与につ  
 戸根山哲也 家兎の集団飼、ケージ飼に関する比  
 較研究 渡辺  
 遠矢 東明 豚の能力に関する二、三の考察 鈴木  
 中 彦一 鶏と鶉の属間雑種の研究 一戸  
 苗代 信一 和牛による澱粉質飼料蒸煮における  
 肥育に対する効果 伊藤  
 長尾 登 一側卵巣と他側卵管摘出家兎におけ  
 る卵子の移行と妊娠の研究 平林  
 永栄 信一 雛におけるブロリンの過剰投与につ  
 いて 伊藤  
 並木 菊彦 ガスタクマトグラフィによる鶏脂  
 肪の脂肪酸組成に関する研究 鬼原  
 丹羽 秀夫 鶏の消化に関する研究 伊藤  
 新田耕一郎 バターの製造及び保存性について 山中  
 芳賀 尚文 飼養規模別類型別酪農経営の成果 砂川  
 萩原 恒茂 ウィンナーソーセージのネット防止に  
 関する研究 鬼原  
 橋本 三郎 家兎と野兎の染色体の比較 柴田

橋本 正次 酪農飼養方式が労働生産性に及ぼす  
 影響について 砂川  
 花村 慶三 肉の軟化に関する研究 鬼原  
 花村和太郎 産卵に関する養分の研究 伊藤  
 浜田 長幸 二、三の養豚場における繁殖に関す  
 る実態調査 平山  
 福田 喜機 未成熟家兎の排卵誘起に関する研究 平林  
 藤井 勝紀 福島県浜通り地方における酪農経営  
 の問題点 砂川  
 船本 富弘 養鶏の栄養剤その他薬品類施用の経  
 済的効果 砂川  
 本間 鼎 労働単位当り豚の収容頭数別収益力  
 的研究 砂川  
 前川 浩平 鶏におけるブロリンの過剰投与につ  
 いて 伊藤  
 幕内 利昭 残飯養豚の経営的有利性 砂川  
 松前 一士 人工肛門鶏における飼料の養分によ  
 る可消化養分の変化に関する研究 伊藤  
 松崎 正治 日本うずらに関する育種の考察 鈴木  
 三上 満雄 酪農経営飼料構成比中の栄養剤の収  
 益力に及ぼす影響について 砂川

三田 大 乳酸菌測定用培地の組成について 山中  
 森 恭章 クリームとハムの品質に関する研  
 究 山中  
 矢崎 正人 市販ラックスハムの品質に関する研  
 究 鬼原  
 山内 俊 飼養規模別類型別酪農経営の成果 砂川  
 山内 雅夫 和牛の共同肥育費用と個別肥育費用  
 との比較研究 砂川  
 山下 浩昭 鶏の消化に関する研究 伊藤  
 山田 安通 ブロイラー品種別肥育実験 平山  
 横川 幸義 大豆蛋白質の溶解度に関する研究 山中  
 吉松 宏昌 肉の結着性に関する研究 鬼原  
 吉本 邦泰 ロードとホワイトロードのFにおけ  
 る孵化の時間差による雌雄発生頻  
 度 一戸  
 和智 洋 緬羊肉に関する研究「日本産と外国  
 産の筋肉組成成分について」 鬼原  
 渡辺 彰 市販煉乳の保存に関する研究 山中  
 渡辺 嘉彦 動物細胞質の血清学的研究 鈴木  
 渡部 泰博 加熱肉に対する香辛料の抗酸化作用  
 に関する研究 鬼原  
 金城 英企 溶血素による豚血液型の種類 鈴木  
 中村 元保 仔豚肥育剤の検討 平山



西脇 充 ブロイラー各品種別の育雛比較 平山

土方 俊雄 鳩における就巢性に関する育種学的観察 鈴木田中

加藤 孝弘 鳩における就巢性に関する育種学的観察 鈴木田中

木島 孝 富山県礪波地方における酪農経営の問題点について 砂川

城内 昭吾 富土山周辺における牧草成分の地域的調査 伊藤

古賀 紘太郎

近藤 紘一 富山県礪波地方における酪農経営の問題点について 砂川

村上 洋一

鶏類 Nutrient Requirement of Poultry, Dairy Cattle and Swine 伊藤

中野 広一郎 鶏雛に対するビタミン剤給与の影響 平山

小川 一実 Hatched Smoke の抗酸化成分 鬼原

佐々木 洋平 日本ザイン種の育種的考察 鈴木田中

高田 豊 人工肛門鶏における飼料の養分による可消化養分の変化に関する研究 伊藤

山西 康太 韓国における畜産の実態調査 平山

柳田 俊介 動物油の酸敗防止に関する研究 鬼原

吉池 仁 肉製品中の食塩含量について 鬼原

榎 正昭 アイオワ州における酪農実態と飼養と経済に関する研究 伊藤

渡辺 淳一 鶏雛に対するジベレリンの肥育効果の検討 平山

岡 弘

菊地 英助 食肉及び肉製品のメチレンブルーテストについて 鬼原

### 東京農業大学畜産学科 “畜友会”規定

#### 第一章 総 則

第一条 本会は東京農業大学畜友会と称する。

第二条 本会は東京農業大学在学学生、教職員および卒業生をもって、相互の親睦をはかり、本学の発展に寄与することを目的とする。

第三条 本会の事務所は、東京農業大学畜産学科本部におく。

#### 第二章 会 員

第四条 本会の会員は左記の三種をもって組織する。

- 一、正会員
- 二、特別会員
- 三、名誉会員

正会員は東京農業大学畜産学科在校生、特別会員は東京農業大学畜産学科卒業生、並びに教職員。名誉会員は役員委嘱により承認を得たもの。

第五条 会員が本会の業務執行妨害あるいは名誉を失せる行為をした時は総会の議決により除名する。

#### 第三章 役員及び機関

第六条 本会は左記の役員をおく。

- 一、委員長一名 副委員長二名 書記二名 会計一名 会計補佐一名 渉外二名 企画二名 クラス委員八名
- 二、監査員四名

第七条 本会は顧問をおき、畜産学科長ならびに畜産学科主事が此の任にあたる。

第八条 委員長、副委員長、書記、会計、渉外、企画は正会員の中より総会において計十一名選出する。

委員は各学年二名、監査委員は各学年一名づつ選出し、欠員が生じた場合、速やかに補充しなければならない。

役員任期は原則として一年とする。

第十条 総会は正会員により構成され、本会の最高決議機関とする。

第十一条 総会は正会員の三分の一以上により成立する。

第十二条 定期総会は、年一回十一月に召集する。臨時総会は、左記に該当した場合前一月以内に召集しなければならない。



一、正会員の四分の一以上の同意を得て、開催目的及び召集理由を記載し委員長に提出あるとき。

二、役員のおよそ三分の二以上が必要と認めたと

第十三条 総会の開催は五日前に公示しなければなら

第十四条 総会に於ける議長は、総会においてその都

第十五条 総会の議決は、出席者の過半数によつて議

第十六条 総会の過半数により、役員の不信任を可決

第十七条 第六条一項に定められた役員は本会の最高

第十八条 本会の事業年度は十二月一日より翌年十一

第十九条 本会は左記の業務を行う。

第二十条 会費は年間七五〇円とする。その納入は四

第二十一条 本会の運営は会員の納入する会費で運営す

第二十二条 納入金の払い戻しは行なわれない。

第二十三条 決算報告は十月末日までに作成し公示する。

第二十四条 本会の業務を円滑、正常化する為、監査委

第二十五条 監査委員は、前条の目的達成の為年度末に

第二十六条 監査委員は第六条一項の役員の兼任は出来

第二十七条 本会規定解釈の疑義は委員会において、最

第二十八条 本会規定の改正及び追加は総会においてお

第二十九条 本規定は昭和三十五年六月二十九日より施

一、会員親睦会

二、講習会及び研究発表会

三、見学調査

四、機関紙の発行

五、その他第二条に附帯する業務

第二十条 会費は年間七五〇円とする。その納入は四

第二十一条 本会の運営は会員の納入する会費で運営す

第二十二条 納入金の払い戻しは行なわれない。

第二十三条 決算報告は十月末日までに作成し公示する。

第二十四条 本会の業務を円滑、正常化する為、監査委

第二十五条 監査委員は、前条の目的達成の為年度末に

会計監査をおこなう。監査は監査委員が必

要と認めれば随時できる。

第二十六条 監査委員は第六条一項の役員の兼任は出来

第二十七条 本会規定解釈の疑義は委員会において、最

第二十八条 本会規定の改正及び追加は総会においてお

第二十九条 本規定は昭和三十五年六月二十九日より施



ふじみの 第6号

昭和41年6月25日 印刷

昭和41年6月30日 発行

発行所 東京都世田谷区桜丘1丁目1~1  
東京農業大学畜友会  
電話(420)2131(呼)

編集責任者 戸塚 征彦  
発行者 鶴岡 恒雄

印刷所 エルデ・タイプ社  
経堂町65 電話(429)1067



